

平成 29 年度第 2 回六戸町総合教育会議議事録

期 日 平成 30 年 2 月 19 日 (月) 午後 1 時 30 分

場 所 六戸町立図書館会議室

案件議事 六戸町教育大綱について
教育大綱の具現について

開会時刻 午後 1 時 30 分

閉会時刻 午後 4 時 00 分

出席者の氏名

町 長 吉田 豊

教 育 長 瀧口孝之

教育委員 新井田秀雄、吉田尚子、松橋一男、山本晃広

説明のために出席した者の氏名

教育課長 吉田英輔

指導室長 坂本和康

教育課課長補佐 佐藤良一、澤口俊博、鈴木博文

会 議 録

町長あいさつ

(吉田町長)

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

また、教育委員の皆様には日頃から六戸町の教育行政の充実・発展にそれぞれのお立場でご尽力いただいておりますことに、心からお礼申し上げます。

3年目を迎えた総合教育会議でございますが、町長と教育委員会でいろいろ議論をさせていただきながら六戸町の教育を前に進めていただいていること感謝したいと思います。

さて、少子高齢化や高度情報化、厳しい経済情勢などを背景として教育を取り巻く環境は、大きく変化してきております。

六戸町におきましても、とりわけ学校教育の分野では「学力の向上」や「いじめ・不登校」など様々な課題があることは認識しております。

こうした中、子どもたちの教育環境は目まぐるしい変化の中において、知徳体が三位一体となった子どもたちが育つ環境を提供していくのが行政の役割であり、先生方が、子どもたちが育つ力を引き出せるような環境を作っていくのが総合教育会議の根本だと思っています。

本日は平成30年度に向けた取り組みについて議論を交わし、「教育力20%アップ」につなげられるよう、共通確認できればと考えておりますので、活発で有意義な情報交換ができることをお願いし、開会にあたりましてのあいさつといたします。

議 事

六戸町教育大綱について

(瀧口教育長)

去年までは8月に総合教育会議を実施した経緯がありますが、この教育大綱はできれば、学校として、年度当初からあった方がいいだろうと思います。それを受け今回は、この時期に総合教育会議を計画させていただきましたので、ご理解をいただきたいと思います。

今回は、前年度の教育大綱の見直しを行いました。若干文言を整理し、入れ替えた部分がありますのでお諮りをしたいと思います。

教育大綱の1ページ1枚めくっていただいて、1ページをご覧ください。マーカー文字で示している部分が前回との変更点ということになります。

六戸町教育施策の方針の中の「社会体育」という文言を「スポーツ」という文言に変えたいと思います。来年度4月から「日本体育協会」が「日本スポーツ協会」に改名するというふうな動きになっています。

講道館の柔道の創始者の「嘉納治五郎氏」が教育学者として非常に著名な方であり、「体育」という言葉を使い始めました。明治45年頃になりますが、当時は今のスポーツを含み、体育という言葉で全てを含んだ形として用いられていたようです。

東京オリンピックを契機に「スポーツ」という言葉が世界でもポピュラーになって、今ではその「体育」という言葉は、学校教育の中で主に使われるような言葉として、理解されております。

逆にその「スポーツ」というほうが広義の意味を持って、体育とか様々なものを含んだ形でこのスポーツという言葉が使われているということで、日本体育協会も日本スポーツ協会に改名するという動きになっています。

今回の改正において、時代にマッチしたような形で「社会体育」という言葉を「スポーツ」と広義の意味に変えたいということの提案です。

また「教育委員会」を「学校」に変えています。この六戸町教育施策の方針は青森県教育施

策の方針を参考に作られています。いわゆる青森県教育委員会として各学校をイメージして、市町村教育委員会と家庭社会と連携するという作りになっていたものと思われます。

六戸町教育委員会では他の教育委員会と連携してというのは整合性がつかないということで、ここは「学校」と改定をしたいというふうに考えています。ここが大綱全体を見た時にポイントになる改定になります。

次に 8 ページをご覧ください。

「登校拒否」とありますが、以前は「登校拒否」は一般的な言葉でしたが、登校を拒否するのではなく学校に行けない子どもを含めて「不登校」という言葉に変えたいと思います。

国際化交流活動の推進に「国際交流員」という言葉がありますが、来年度六戸町では国際交流員の配置を予定しておりませんので、「外国語指導助手」に変えたいと思います。また外国語指導助手を増員するというご提案をさせていただきます。次ページ以降においても同様に調整しました。

以上大綱について、ご判断をいただければと思っております。私からは以上です。

(吉田教育委員)

学校では「スポーツ」に変わるのではなく「体育」のままということですね。

(教育長)

学校は体育です。変わりません。教科の体育であったり、中学校でいえば保健体育ということでは残ります。

(吉田教育委員)

それではスポーツというのは、どのあたりが変わるのですか。

(教育長)

スポーツというのは一般的な広義のとらえ方ということで、六戸町教育委員会も学校教育だけじゃなく社会教育、それから広い意味での体育以外のスポーツも扱ってますので、そこを体育という狭義の意味ではなくて、広い意味でのスポーツという言葉に変えたいということです。

(吉田教育委員)

わかりました。

教育大綱の具現について

(瀧口教育長)

もう一つの資料に平成 30 年度、2018 年度の教育大綱の具現ということで、お示ししております。これも先ほどの「教育大綱」の変更に伴っての文言整理がほとんどであります。

1 ページ 2 ページは大綱に沿った改正であり、3 ページは、「啐啄同時（そったくどうじ）」の対応を通じてというところではありますが、分かりにくいところもありましたので、「児童生徒と学校家庭関係機関等との適時適切な対応を通して」というように改正したいと思います。

「啐啄同時」はもともと、鶏が生まれる時に、卵から生まれるヒナがツンツンと突っついて親鳥が外からツンツンと突っついて、ヒナが生まれてくるという、もともとは宗教の言葉を引用しています。「弟子が悟りを開かん」としているところで、師匠がパッとアドバイスをして悟りが開かれるというように両方同時にうまい具合にタイミングあった時に物事が生

まれるという意味かと思えます。私も時々使わせてもらう言葉です。

次に4ページになりますが、6番の特色ある学校運営に、コミュニティ・スクール（仮称）の調査・研究を来年度実施したいということで加筆をしてあります。

5ページでは、社会教育の分野で主な取り組みとしてIT講習会を青年講座に盛り込むということで削除をさせていただき、6ページのB&G水泳大会と救命講習会は実際行っていないため削除しております。

教育環境の整備状況では、(2)で小中学校給食配膳室の防犯用カメラ設置とありますが、設置済みですので削除し、小中学校連絡網サービス等整備は、今年度は進めてきましたが、整備を終えましたので今度は保護者への情報提供と具体的なものに変えてあります。

7ページになりますが、授業のICT化の推進を来年度、調査研究を行っていきたいと思っております。学校トイレの洋式化については、今年度補正予算で既存の洋式トイレを暖房便座化しております。9月の定例議会で質問があったと思っておりますが、今の生活スタイルにあったトイレを考えて欲しいという要望もあり、洋式化50%を目指すと答弁しております。それに伴って来年度は小中学校のトイレを50%、公言どおりに洋式化率を図るということになります。

改正のポイントは以上になりますが、これを皆さんからご了承いただいて、学校に伝え、これに沿って学校教育を進めて欲しいと話したいと思っております。また社会教育の分野はこういった形で進めて欲しいと教育委員会から、お話ししたいと思っております。

(山本委員)

4ページの特色ある学校運営で新たにコミュニティ・スクール（仮称）調査・研究と付け加えられてありますが、詳しくお聞きしたい。

(瀧口教育長)

簡単に述べますと学校と地域との連携を図るということですが、今も学校では地域、保護者、家庭はもちろん、地域から協力を頂いて、学校教育を進めています。

地域の力を学校に取り入れていくことで、大きくは考えられておりますけれども、逆に地域が学校にできることをいうのもあると思っております。両方がうまく連携しあって学校は学校で地域の力を借りて、地域は地域で学校の力を借りて、お互いがウィンウィンの状況を作ってひとつのコミュニティが充実発展していけばいいなと思っております。

今、中学校が2校、小学校が3校、5校学校があります。初めは学校単位でコミュニティ・スクールという形でその地域との連携を進めていきたいと思っておりますが、いずれ近い将来子供達も減って学校の数も統合され、減っていくことが見込まれます。その先では小学校1校、中学校1校の時代が到来した時には、地域との連携がうまくいってないということがあっては、町全体に元気がなくなるという言うか、そのようなことを懸念しています。そうなる前に、体制やシステムをしっかりと作っておく必要があるだろうと考えています。

名前も変えたいとは思っておりますけれども、コミュニティ・スクールは文科省が推奨した名前ですので、六戸町独自のものにし、独自性のあるバージョンを進めたいと思っております。

(山本委員)

わかりました。

(吉田町長)

先ほどあいさつで申し述べましたが、最大公約数的な意味合いの中で、地域住民の関心度というものがあります。それは数が少なくなって、子ども達が何かあると目が、視線がいくんです。ところが、スパッと切れた状態で社会が動いてきた。周りの人たちが子ども達を全然知らない、親がわからないという、原因は何かというはっきりと一つじゃないとは思いますが、切り離れた状況で子ども達が地域に存在しているというようなところがあります。

しかし、みんなが関心を持てるような環境があれば、みんなが目を向けるのは子どもであり、今の社会は子どもが少ないといいますが、子どもが身近なところでしゃべったりしていると年輩の人とか含めて視線がいくものです。

その環境ともものは確かにあった方がいいと思います。今切り離された状況の中にありますから、「地域と一体に」といいますが、何かの行事の時に一体化しているとは思いますが、普段はどうなっているかわからない。数少ない子どもに地域の住民の目がいくような、そういうような意識が醸成されればいいと思います。

(瀧口教育長)

教育大綱を進めていく中で、具現とともに六戸町教育委員会では、これを基に施策として進めてまいります。今後学校に示して、学校は学校で「上北の教育」であったり「六戸町学校教育の指導方針と重点」であったり、そういったものを示し、それを参考に学校では具体的に進めていくということになります。ご承知ください。

(吉田教育課長)

それでは、次第では5番目になります「六戸町教育委員会から」ですが、資料は別の「六戸町教育の現状と課題、今後の対策と計画等」をご覧ください。教育長の説明をお願いします。

(瀧口教育長)

それでは、レジュメに従い、まさに現状と課題、今後の対策と計画について、簡潔にお話しをさせていただきたいと思います。

最初に「いじめ・不登校」についてですが、六戸町の大きな課題というか六戸町に関わらず、全国的な学校教育の中での大きな課題であることはご承知のことと思います。

次に学力向上ということですが、一つ目としては六戸町の小中学校の実態として、資料1と2を示してありますけれども、これは青森県の学習状況調査、平成22年度から平成29年度までの結果をのせてあります。22年度と23年度の数値を見ると、例えば小学校の方、順位をもって判断するのは拙速かと思いますが、短絡的ですけど、郡内の順位はそこに示されております。

これは児童のがんばり、それから先生方の指導の賜物ということですけど、櫻田前教育長がかなり学力向上ということを前面に出しているいろいろな施策をしてきた結果だろうなと思っております。

(3)はALTの増員について、来年度2人増員ということで、トータル3名体制で臨みたい。平成32年度から新学習指導要領が小中学校では完全実施ということになっています。30年、31年は六戸町としては先行実施、32年を待たずしてそういった方向に舵をきるというふうなことで、小学校においては3、4年生で外国語活動というのが入ってきます。5、6年生

で教科として英語が入ってきます。そういったことに伴って、本物で学ぶということで、ネイティブな人たちから外国語を学ぶ場を設けたい。これは生徒だけじゃなくて、ALT が配置されると先生方がものすごく勉強しなければいけない状況が生まれると考えています。そこもねらいの大きな部分であります。先生方がしっかりしたものをもたなければ、子どもたちに効果的な教育ができないということかと思えます。子どもたちよりもたぶん先生方が勉強することになるのかなと思っています。

(4) は教育力 20%アップ事業ということで、「誇れるNo.1 事業」を平成 25 年度から取り組んでいるものですが、資料 2 をご覧ください。先ほど、吉田町長からも話がありました、数値的な、学力だけでなく、豊かな人間性であったり、健やかな心と体であったり、色んな分野で教育力アップをしてほしいということでの事業であります。

ずいぶん、各学校からの様子を聞きますと、決して多い額ではないけれども、意識として授業に取り組むという風な先生方の共通した意識が高まって、効果が高いという感想をもらっています。

(5) の中学生海外派遣事業ということですが、平成 6 年度から実施しており、今度平成 30 年度 4 月で 25 回目を迎えます。25 年、四半世紀にわたって、アメリカメーン州キタリー町シャプリ中学校との海外交流事業です。非常に有意義な事業であると思います。学力向上に載せてありますが、さまざまな経験を積んで今、社会人になっていますけれども、いろいろな分野で活躍しています。ぜひ今後とも続けていきたい事業はであると考えています。

大きな 3 番、コミュニティ・スクールということですが、これは先ほどご説明したとおりでありまして、学校と地域社会連携していかなければならない。町長が言う町づくりは人づくり、子は宝、町の子は町で、町全体で子供たちを育てていかなければならないということかと思えます。

来年度は調査研究を進め、31 年度からできれば実際に各学校単位で進めてもらいたい。ゆくゆくは町全体で考えなければいけない。今教育委員会として考えていくことにしていますが、実は町長部局も加わって一体となった取り組みが必要になると考えています。町民課、福祉課いろんな部門で連携が必要かと思えますが、今日は町長が出席いただいておりますので、今後そういった部局とも関連し合っ、事業を進めていきたいと思っていますので、その辺の御理解も頂きたいと思っています。

教員の多忙化への対応ということですが、まずは教員の勤務実態を把握しなければならないということで、小中学校一校ずつにモデル校として、タイムカードの機械を設置して、勤務実態をはかる、その結果を一つの参考にしながら、今後の対応を考えていきたいと思っています。30 年度の予算にタイムカード計上させていただいています。

最後になりますが、教育環境の整備ということで、大曲小学校の教室の増築、多目的室等の整備ということです。総合体育館の大規模改修、老朽化に伴うリニューアルと機能の向上です。古い施設ですので、冬場非常に寒い施設です。非常に寒くて利用者が震えながらやっている現状です。それが暖かい施設になれば、小さい子からご高齢の方までいろんな使い方ができると町長の強い思いもあり今計画しています。